

斜面積雪の安定性指標に基づく雪崩警備方法

栗原靖 飯倉茂弘 鎌田慈 穴戸真也 高橋大介 河島克久

雪崩に対する警備は、過去の経験から地域毎に基準を設けて実施している場合が多い。現状の方法は、各地域の特情を反映しており、有用である反面、地域によって雪崩対策や安全に対する考え方に違いが生じる可能性がある。

合わせることで、入手が容易な気温と降水量データから推定可能である。このように、本警備方法を用いることで、地域に関わりなく同一方法で鉄道沿線における雪崩警備斜面とその警備期間を決定できる。

そこで本研究では、雪崩発生時の特徴および既往の研究成果を参考にして、客観的指標に基づいた雪崩警備方法を開発した。本警備方法は、最初に地形図と空中写真から得られる情報をもとに警備斜面を選定し、警備が必要だと判定された斜面については、図に示すフローに従って警備期間（ここでは、警備の準備および体制を整えておく期間）を設定した。なお、各判定指標は、既往の研究成果と経験式を組み

(鉄道総研報告, 2011年7月号)

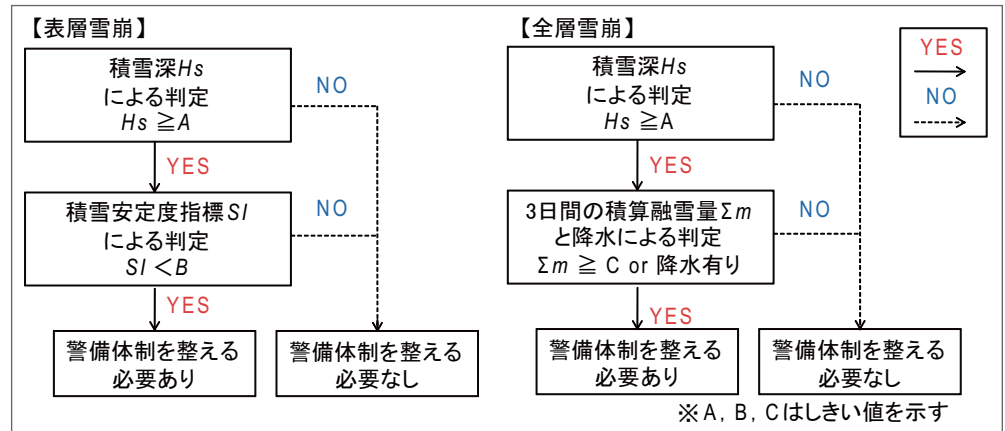


図 雪崩に対する警備期間の設定方法